

バス停からの 小さな旅



06 バス停「正眼寺前さとやま線(蜂屋・伊深・三和方面)」から 重森三玲の庭園を愛でる

バス停名にもなっている正眼寺しょうがんじ。臨済宗妙心寺派であるこの寺院の開山は、今からおよそ690年前の元徳2(1330)年といわれ、修行道場としても知られています。本堂を右後方に左手に進むと車寄せがあり、「毒草窟」と名付けられた旧本堂の西側に、観音像を取り囲むように一つの庭園があります。

この庭園は、作庭家であり庭園史研究者である岡山県生まれの重森三玲しげもりみれい(1896~1975年)が昭和43(1968)年に設計した枯山水様式かれさんすい。奥の観音立像から四方へ伸びる白線は無量光むりやうこう、周囲と囲む敷石は雲海を表現し、敷石の種類を変えることで紫雲と白雲を表しています。その雲海に点在する石組は庭園を立体的に見せながら、三十三観音を象徴しているとも考えられます。重森の作品としては、豪華な装飾を控え、ほかの庭園とは少し趣を変えた作品です。

固い石を雲や光などの柔らかかなものに見立てたこの庭園は、寺の後ろにそびえる山全体とともに荘厳な雰囲気を出しています。

【参考文献】『日本庭園史大系33(1976年)』

◎文化の森 ☎28・1110



▲旧伊深村役場庁舎



今回乗車したバス

行き…さとやま線

左まわり2便

帰り…さとやま線

右まわり4便

09時24分 美濃太田駅北口

09時45分 正眼寺前

正眼寺の庭園を見学後
バス停に戻り、西へ散策。国登録有形文化財の旧伊深村役場を見学。

11時51分 正眼寺前

12時13分 美濃太田駅北口